

2004年1月5日

米倉 弘昌 社長 年頭あいさつ要旨

現在の中期経営計画はこれまで3年間にわたり取り組んできたが、画期的な技術による大型設備を相次いで稼働させるなど、各種の案件を着実に実施してきた。本年スタートさせる新・中期経営計画は、ますます厳しくなる事業環境の中で、グローバル・ケミカルカンパニーの実現への大きな一歩を進めるものである。今から10年後、すなわち創業100年目の当社のあるべき姿を見据えた「事業ポートフォリオ」の実現に向け、事業の「選択と集中」を徹底し、市場の成長が期待できるとともに当社として強い技術力や優れた収益性などの強みを持つ事業分野に経営資源を積極的に振り向け、成長を加速していくことを基本方針とする。

当社は今後、単に素材の提供だけではなく、研究の初期段階から商品のコンセプトを描き、新たな部材や加工製品などの開発を志向する川下展開や、製品を単品として開発するのではなく、新しい最終製品に関連する材料を統合したシステムとして提供する「マテリアル・ソリューション・ビジネス」への進出をめざし、全部門を挙げて注力したい。また、「企業の社会的責任(CSR)」については、世界的な動向を踏まえ、多様なステークホルダーに対してバランスの取れた配慮を行い、幅広く支持を得るように努めることが長期的な競争力強化の基盤になるという観点から真剣に対応していく。さらに、全部門、全事業所で必要になるグローバルに活躍できる人材を育成するための制度を一段と充実させていきたい。

こうした経営の方向性や課題を踏まえ、次の3点に努めてほしい。

1. プロフェッショナルとして業務を世界水準で遂行するため、基本に忠実に社会や会社のルールを尊重しながら職務を誠実に行うこと
2. 開放的で自由な議論を通じてベスト・プラクティスを追求すること
3. 整備を進めてきた情報システムなどのインフラを大いに活用して経営や業務遂行のスピードを上げ、より大きな顧客満足度を追求すること

言うまでもないが、無事故・無災害は事業運営の大前提である。常々「安全を全てに優先させる」と申しているが、それは当社の活動のあらゆる場面で、全てに優先するということである。安全の実現のため、この基本の心構えを忘れないことが最も重要である。

以上